



### みぬまニュース

#### 第72回 見沼塾

『渋うちわ作り』 8月4日(火)、5日(水)

両日共に清々しい気候に恵まれ、子ども5名、大人7名の参加者と民家園ボランティアスタッフ等総勢18名で峯岸郁子氏を講師にお迎えし、渋うちわ作りに挑戦しました。渋うちわは、和紙の面に柿渋を塗り重ねたもので、水に強いなど耐久性に優れた昔ながらのうちわです。

初日は室内で面作りを行いました。秩父の小川和紙を型紙に合わせて断ち、糊で竹骨に張り合わせます。乾燥に時間がかかるため面に描く絵柄は自宅での宿題となりました。



渋うちわの面作り

2日目は野外で待望の柿渋塗りです。柿渋は、さいたま市内で唯一製造されている貴重なものを取り寄せました。独特の臭いに驚きながらも、完成を目指して塗り重ねていきました。仕上がりは淡い茶色ですが、年を経るごとに風合いを増す楽しみもまた柿渋の持ち味です。(浦和くらしの博物館民家園)



柿渋塗り

「見沼ふれあい農園づくり」スタート!  
63名で秋野菜の種蒔き完了

さいたま市緑区見沼610及び613(約2,050㎡)の埼玉県公有地の荒地を開墾して、農地を復元したのです。夏の間、厚沢正栄副会長と地元の有志が耕運を繰り返し、畝を作り上げました。こうして、見沼たんぼくらぶの呼び掛けで、市民参加の秋野菜づくりが始まりました。

9月12日(土)、10時頃から子ども13名をふくめ63名も集まり、聖護院大根・人参・蕪・春菊・青梗

菜の種を蒔きました。参加者が多いので、小一時間で秋野菜の種蒔きが完了しました。公有地ということで、埼玉県土地水政策課及び水環境課の職員4名も参加しました。



見沼ふれあい農園での種蒔き

【今後の作業日程】(除草から収穫へ) 10月10日・25日、11月15日・29日。(小野)

「第1回見沼たんぼふれあいウォーキング」  
12月5日(土)開催、是非ご参加ください!

見沼たんぼくらぶの主催イベントとして開催する「見沼たんぼふれあいウォーキング」は、見沼たんぼを歩きながら、チェックポイントごとに簡単な問題や体験に挑戦し、ゴール地点を目指すイベントです。

参加者のみなさんに楽しみながら見沼たんぼの素晴らしさにふれていただけるイベントとするために事務局が頑張って準備をすすめています。歩く速さを競うものではありませんので、お子さんやお孫さん、お友達と一緒にお気軽にご参加下さい。

詳しくは8ページのイベント案内をご覧ください。  
(事務局)

#### 見沼たんぼの四季 『稲架かけ』

懐かしいこんな風景が、まだ見沼の所々で見られます。稲架かけといって、刈り取った稲を天日乾燥させているところです。地域によって様々な形があり、人と稲との係わりの深さを実感させてくれます。太陽エネルギーで乾かすわけですから正に「エコ」なのですが、その反面、大変な手間がかかります。



稲架かけ

もみをとったあとの藁も、最近は環境に配慮した資源として再び注目されてきつつあります。(高橋)

# 見沼たんぼ探訪記

見沼たんぼには、四季折々の美しさを感じられる自然や、文化や歴史により育まれた風景など、魅力的なたくさんの見所があります。ここでは、そんな見沼たんぼの見所を紹介します。

## 「見沼通船堀開閉実演」行われる

見沼通船堀<sup>こうもん</sup>開閉実演が8月26日(水)に行われました。「開閉」とは水位差の大きい所に上下2か所の開(開閉)を設け、水位を調節しながら船を通す施設で「パナマ運河(1914年造)」と同じ方式です。

この通船堀は享保16年(1731)徳川吉宗の時代に井澤弥惣兵衛<sup>いざわ や そへえ ためなが</sup>為永によって造られた運河で、芝川と東西の2本の見沼代用水路を結んでおります。江戸時代の土木技術や流通経済を知る重要な史跡として、昭和57年7月3日に国指定史跡となりました。実演場は芝川と見沼代用水路<sup>ひがしべり</sup>東縁を結ぶ「見沼通船堀東縁」で、10時と13時の2回行われましたが、13時の実演を見学する事ができました。

その場所は東浦和駅から徒歩でおよそ15分の位置にあり、開始前には通船堀には2重3重の見学者の人垣ができ、祭り気分の雰囲気になっていきます。幸いこの日は、空は雲に覆われ日中の気温も比較的低めの日でしたので、見学には好都合の日となりました。

見沼代用水路東縁からの水はかなりの勢いで芝川に向かって流れており、両者の距離は約390mにも関わらず、水位差は3mもあるということです。定刻になって芝川側の「一の関」が開められて行くと水位は序々に増し、40分も経過するとその深さは1mほどにもなります。当時使用した船の半分の大きさに復元したという船が、水位の上がった通船堀の中をゆっくりと動き出します。実演区間は「一の関」と「二の関」の間のおおよそ90mの間ですが、見学者はカメラを取り出し、その様子を記念にと撮影に熱中するの



水位が上がった見沼通船堀

江戸時代から昭和6年までこの通船堀は使用されていたらしく、見沼代用水路沿いの村々と江戸・東京とを結ぶ船運として重要な役割を果たしてきた姿を、私たち見学者に想像させてくれるのでした。

参考のためにこの船運で扱われた貨物を調べてみますと以下の通りでした。

江戸からの貨物:大豆粕、肥料、塩、魚類、醤油、菓子、荒物...等

江戸への貨物:米、粉、大麦、野菜、木材、竹材、漬物、酒...等

(召田記)

## 座間谷戸山公園への交流バスツアー

今年の見沼たんぼくらの交流バスツアーは、神奈川県立座間谷戸山公園への訪問であり、9月13日に行われました。参加者は男性21名、女性21名の男女同数の合計42名でした。

座間谷戸山公園は、昭和62年から整備され、全面開園となったのは平成14年であり、30.6ヘクタールの面積を有する公園です。園内は「里」、「山」、「水辺」の3面の景観があり、田んぼ、雑木林、湧水、湿地、池等々を楽しむことができます。

午前中は外周の遊歩道に沿ってスギ・ヒノキ観察林、クヌギ・コナラ観察林等を、午後からは「里山体験館」辺りを中心に湿生生態園、水鳥の池、田んぼ等を4班に分かれ、それぞれの「班ガイド」の皆さんの詳しい説明を聞きながら自然観察を楽しみました。



集合写真(座間谷戸山公園にて)

ムクノキがザラザラしており、今もヤスリの代わり

に使用されており、マユミの木は弾力性がありしなやかなので弓に使われている、カラムシの茎からは、繊維質なので、昔は布が作られていた等々、話には聞いてきたことではありますが、説明を聞きながら実際に自らの手で触り、自らの目で見ることが出来たととても勉強になりました。

水鳥の池ではカワセミを、田んぼではドジョウ、タニシ、イナゴ、そして黄金色に実った稲等を、雑木林では、枝葉の陰にクルミの実が青く数珠なりになっているのを見て、ナガイモの蔓<sup>つる</sup>が長く伸びて色といったら黄色がかってきているのや、アケビの長くなった青い実を見るなど、説明を受ける度に「自然の姿」が、こうして残されているのを知りました。

自然に触れ、自然を見るという事は、今の時代では「開発」の力に押し狭められて行ってしまっ、なかなか体験できなくなってしまっています。

大宮に戻ってきたのは16時少々過ぎてはいましたが、今日のバスツアーでは、「自然の力」にすっかり体が癒されてか、何の疲れも残らない、とても楽しい1日でした。(召田記)



## 見沼たんぼの植物

### － 水田の雑草 －

水田はイネの主たる耕作の場である。栽培種のイネの種子は私たちの主食である米である。イネは東南アジアとアフリカにその起源があるという。我が国へのイネは東南アジア起源のものであるが、その伝来路は諸説あるが、縄文期末期までに将来されたようである。温暖で湿潤な気候の我が国では水稻が一般的な田園風景となっている。水稻は湿生植物(水辺や湿原など、湿潤な所に生育する植物)の一種であり、育成には十分な水を必要としている。そのため、見沼たんぼの開発には利根川から約60キロもの見沼代用水を引いている。

漢字の「米」は、十印の四方に点々と小さな米粒の散った形を描いた象形文字である。この字を八十八に分解して、昔から米は農家の人々が88の苦労(作業)を重ねて生産された貴重な食物であり、決して疎かな扱いをせぬよう言われてきた。

イネ耕作地は、同じ性質をもつ植物にも生育に適した場所であり、多くの湿生植物が入り込んでくる。水田周囲に生える栽培種のイネ以外の植物は全て雑草であり、イネの生育を妨げるものとなる。広辞苑

で「雑草」を引くと、「自然に生えるいろいろな草。また、農耕地で目的の栽培種以外に生える草。たくましい生命力のたとえに使うことがある」とある。雑草は人の都合で判定されるものと理解できる。従って、その除去は重要な作業である。現在は除草剤の散布により除草作業は容易になっているが、以前は、田植え後の1・2週間後から1～3番草があり、多い所で5番草までの炎天下の厳しい除草作業であった。「田草取」は夏の季語となっている。

9月6日さいたま市北区の水田の観察によれば、既にイネは実を結び、その穂は一樣に重く垂れ下がっている。水が抜かれている水田の中では、背の低いアゼナ、イボクサ、コナギ、セリなど、また、イネより背の高いものとしてイヌタデ、タカサブロウ、チョウジタデ、ヨシなど個体数は少ないがある。ヨシは隣の休耕地から侵入した模様である。除草していない休耕地には、背が高く伸びたイヌビエ、オオイヌタデ、ジュズダマ、ケイヌビエなどがある。畦は刈り取られた場所もあるが、そうで無い畦は、多くの雑草がピッシリと生えている。オオクサキビ、キンカヤツリ、タマガヤツリ、ツユクサ、ヒデリコなどがある。この場で観察した雑草は全部で30種は超えている。これらの多くは花を咲かせていた。(NPO法人自然観察さいたまフレンド 若野忠男)

## 見沼たんぼの動物

### － 晩秋から早春にかけて見られる野鳥 －

見沼たんぼで、晩秋から早春にかけて、よく見られる野鳥を紹介します。(下線部はカモ科の仲間。)

留鳥(一年中見沼たんぼに生息し繁殖します。)

アオゲラ、アオサギ、アカゲラ、オオタカ、オオバン、カイツブリ、カルガモ、カワウ、カワセミ、カワラヒワ、キジバト、ゴイサギ、コゲラ、コサギ、シジュウカラ、スズメ、セグロセキレイ、ダイサギ、ハクセキレイ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、バン、ヒバリ、ヒヨドリ、ホオジロ、ムクドリ

冬鳥(北から晩秋に飛来し、春に北に帰ります。)

オオヨシガモ、オナガカモ、キンクロハジロ、コガモ、ジョウビタキ、ツグミ、ハシビロガモ、ヒドリガモ、ホシハジロ、マガモ、ユリカモメ、ヨシガモ

漂鳥(季節により国内を移動します。)

アオジ、ウグイス、メジロ、モズ

旅鳥(春・秋に見沼たんぼを通過します。)

タシギ

カモ科の仲間の観察しやすい場所は.....

冬場、誰にでも親しめるパードウオッチングは、何と言っても水辺に群れるカラフルなカモ科の仲間です。足場の良い観察しやすい場所を紹介します。

池沼では、見沼自然公園、合併記念見沼公園、大宮公園、大宮第三公園です。

芝川では、中川橋周辺(大宮南部浄化センター)境橋(旧16号)～石橋(大和田公園通り)、鷲山橋周辺(市民の森通り)です。



オナガカモ

カモ科の仲間と一緒に、アオサギ、カイツブリ、カワセミ、バンなども見られる所です。

(NPO法人自然観察さいたまフレンド 小野達二)



# 新釈見沼民話 見沼の竜の語り草

宮田正治

## 下山口新田の弁天社ものがたり（前編）

どうじゃ、面白そうな表題をつけたと思うじゃろう。事実、面白いのじゃよ。

今度の話は、見沼の主『竜神さま』が関わってくる昔話なのじゃ。わしではないが、見沼に君臨する竜神ということになっておる。そしてその話なら知っているという物も大勢いることじゃろう。まあ、さほどに有名な話でもあるのじゃが、中味は普通と少し違うぞよ。さて、どこが違うかな？

八丁堤の東側は木曾呂村で、ここで生まれ育った高木辰五郎という老人がいた。年は八十を越えているらしいが、明るい性格の持ち主で十歳は若く見られているようじゃ。

この老人、つれあいとともに民謡や流行歌が大好きじゃった。それが次第に昂じて、やがては家を改造して集会場のようにしたので、毎日人が集まってくるようになった。その言い分がおもしろい。

「きょうも皆さん、ようこそおいでくださった。何度も言っているように、見沼の竜神様は賑やかなことが好きだったとのことだから、遠慮しねえで明るく歌って、元気に踊ってくんなされ。うちの婆さんも張り切っていることだし、宜しくどうぞ……」

わあッと拍手が起こって、歌と踊りの大にぎわいとなるんじゃが、この辰五郎老人、話も大好きで、子供は勿論のこと、大人にもしばしば昔話を聞かせるんじゃった。

わしが立ち寄ったその日、ちょうどいいあんばいに弁天様の話を始めるところだった。

子供が十二、三人と大人が五人ほど坐っていた。わしは身を隠したまま、後ろの方に座って聞いてみた。結構上手にしゃべり、子供たちを飽きさせなかったのには感心した。その調子を思い出しながらここに綴ってみよう。

「その坂下の山口橋のそばに、小さな祠が建ってるな。そうだ、木曾呂富士塚の下の方だな。あの祠は巖島神社と書いてあるとおり、安芸の国(広島県)の弁天様が祀られている。なぜあそこに祀られることになったのかという話だが、面白いんだよう……」

むかしむかし、山口橋の近くに『車屋』という屋号の、小さな運送屋があった。主人夫婦のほかには、荷車三台と馬二頭、雇い人五人といったところで、みんな仲良く、一生懸命働いていた。田畑で取れた作物や見沼の魚を、鳩ヶ谷宿や川口・千住の方にまで売りに行っ

ていたんだな。

ある時、雇い人の太平が、荷を下ろしたから馬を引いて、千住、鳩ヶ谷と戻ってきた。西新井宿を過ぎたところで、先を行く苦しそうなた取りの娘に追いついた。

木曾呂の方へ行くみたいだから、乗せてやろうか？うちの旦那は人には親切にしろといつも言ってるだ。どうせ馬なんだから、悪くはあるめえ。

こう思った太平は、娘に声をかけた。

「だいが疲れてるようだが、どこまで行くんかね？」

「はい、何とかして山口橋のあたりまで……」

「そりゃあ、たいへんだ。まだ、大分あるで。この馬に乗んなせえ」

「でも……」

「いや、金はいらねえだ。どうせから馬だし、木曾呂への帰り道だよ。さ、乗んな」

親切な太平の言葉にお礼を言った娘は、うれしそうに馬にまたがった。太平もいい気分で轡を取った。

二十町(約二キロメートル)ほどで山口橋の近くにきた。娘が言った。

「ありがとうございます。ここで降ろしていただきます。すっかり元気を取り戻すことができました」

「そりゃあよかったな。気をつけてお帰んなさいよ」

太平が馬の向きを変えていると、娘はたもとの中から何かを取り出した。ぷーんといいい香りがした。それは、絹の織物、美しい錦の巾着だった。巾着ではなくて、小箱だという人もいるんだが、わしの母親は、巾着だと聞かされてきたというから、それを信じよう。

「お礼のしるしにこれを差し上げます。ですが、これは、どんなことがあっても中をのぞかないでください。これだけは絶対に守ってください」

「ありがとう。旦那様が喜ぶだんべ。約束はきっと守るっからな」

太平は巾着を受け取ると、深々と頭を下げた。そして、顔をあげてみるともう娘の姿は消えていた。見沼に一筋、すーっと遠くまでさざ波が立っていた。

太平は店に帰って、旦那にこの話をして巾着を渡した。旦那は大喜び、さっそく神棚に上げて手を合わせた。(後編に続く。見沼文化の会発行「竜のひげ」第3号から転載)



# 見沼たんぼ 水彩スケッチ紀行

絵と解説 八木一郎



## 「埼玉スタジアム 2002」

(バックスタンド)

緑区中野田に位置し、サッカー専用の競技場。平成13年完成。周辺には、水の広場・緑の広場など憩いと安らぎのある公園が整備されている。

スタンドの巨大さと精緻さに圧倒されて、デッサンには今までになく時間を取った。前景は調節池。

## 「建設中の芝川第一調節池」

JR武蔵野線の北、芝川を挟んで東西にひろがるのが建設中の芝川第一調節池(約550万立方M)。県の「見沼田圃の保全・活用・創造の基本方針」に沿って計画中の七調節池の一つ。大宮第二公園にはすでに第七調節池(約45万立方M)が完成している。

アシ原には、小動物・鳥・昆虫などの稀少動物が生息し、工事中でも部分的に完成した遊歩道で貴重な自然環境を観察することができる。



## 「中山神社(別名 中氷川神社)」

第二産業道路・新大道橋の北に鎮座し、大宮の氷川神社・三室の氷川女体社を結ぶ線の丁度中間にあり、王子社ともいわれる。この三社は、いずれも見沼を見下ろす台地に位置し、それぞれ男体宮・巖王子宮・女体宮と称されて各々が深い関係にあり、かつては1社であったことを物語っている。

境内には御火塚があり、伝統のお火渡りの儀式が復活している。

# 見沼たんぼくらぶ会員アンケートより

みぬま通信第 39 号に同封した「見沼たんぼくらぶ会員アンケート」により、会員の皆様から貴重なご意見を多数いただきました。ご協力ありがとうございました。

アンケートの結果は、今後の見沼たんぼくらぶの活動内容の向上のための参考とさせていただきます。本号では、「見沼たんぼくらぶ会員アンケート」により寄せられたご意見から、1件を紹介します。

松林 省策

自宅の近くを流れる芝川、見沼代用水(西縁・東縁がある)綾瀬川などで、メダカの姿を見ることが難しくなってきました。

田んぼと平行して流れる畦道の小川に、水面を群れて泳いでいるメダカを見ると、裸足で川の中に入り玉網で魚獲りをしていた子供の頃を思い出し、いとおしさを感じます。

最近の「田んぼ」は米の収穫量を高めるため、畦道にコンクリートの U 字溝埋め込んで小川と田んぼを分離しています。

そのため、メダカは「田んぼ」で産卵することができず絶滅に瀕しています。メダカの学校は出生率が年々低下して、廃校に追いやられているのが現状です。

動植物は自然の中で観察するのが本来あるべき姿であり、人の手が入っていない自然は大変貴重となりました。

しかし、自分が知らないうちに生活排水を川に流し、いつも乗っている自動車の排気ガス(CO<sub>2</sub>)で空気を濁すのもまた現実です。

近くを流れる芝川や見沼代用水は魚や野鳥が安心して棲める環境ではありません。

人間の都合で河を護岸工事したり、川に人が落ちないようにフェンスで囲ったりすると、自然と人間の距離はさらに遠くなり手が届かなくなっています。

危険から人を守る愛情を持つと同じように、破壊から自然を守る愛情を持ちたいものです。

特に昭和 40 年以降の里山は、自然を破壊することにより人間の生活圏を拡大してきました。一度、自然を破壊するとその土地固有の自然環境は、なかなか元には戻りません。そして、自然環境を破壊すると災害という人間の想像を超えた被害が必ず襲ってきます。

今までの生活優先主義から、少しの我慢と辛抱をする生活習慣へ、世界の人々が方向修正しなければ行けないと思います。

これから数十年後、地球で生活していくためには水や空気がタダでなくなりそうです。子どもたちのためにもこれ以上地球を汚してはいけません。

私達が身の回りのちょっとした環境変化や、季節の変化を肌で感ずることができれば自然環境を守る心が育まれます。

子供の頃、いろいろ感動を覚えた大自然を、次の世代へとバトンタッチしたいものです。

「世界平和と環境破壊のない美しい地球を、子供、孫の代へ残したいと思います。」



## 浦和博物館

住所：さいたま市緑区三室 2458 電話：048-874-3960  
開館時間：9時～16時30分 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

### 1 展示活動

- ① 特別展「市内中山道をひもとく」  
期間：10月3日(土)～12月6日(日)  
時間：9時～16時30分  
内容：中山道の市内部分について、歴史や伝承、そして現在の様子など基本的な事柄を取り上げて紹介していきます。
- ② 企画展「ちょっと昔のくらしの道具展」  
期間：12月12日(土)～平成22年4月中旬  
時間：9時～16時30分  
内容：今の小学生の父母・祖父母が、子供のころに使った道具の変化を展示。小学校3年生向け。

### 2 三室地区定例探鳥会

日時：10月18日、11月15日、12月20日(毎月第3日曜日)  
9時00分～12時00分(雨天中止)  
集合：9時に浦和博物館  
場所：浦和博物館周辺の見沼たんぼ  
主催：日本野鳥の会埼玉県支部  
参加費：高校生以上100円、小・中学生50円(未就学児は無料)

### 3 文化講座

日時：12月6日(日) 14時～15時30分(開場13時)  
会場：コルソ7階ホール(浦和駅西口前)  
講師：大村進氏  
対象・定員：一般100人  
入場料：無料  
内容：中山道をテーマにした講演  
申込み・問合せ：11月5日(木)9時から電話または直接浦和博物館へ。定員になり次第締め切り。

## 浦和くらしの博物館民家園

住所：さいたま市緑区下山口新田 1179-1 電話：048-878-5025  
開館時間：9時～16時30分 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

### ① 探鳥会

日時：10月4日(日)9時～12時  
対象：どなたでも  
費用：中学生まで50円、高校生以上100円  
申し込み：当日、直接民家園へ

### ② 和紙と水引の祝儀袋づくり

日時：10月25日(日)9時30分～12時  
対象：どなたでも 定員：20人  
費用：材料費500円  
申し込み：10月4日から電話で民家園へ

### ③ 民話と紙芝居

日時：11月1日(日)10時～12時  
対象：どなたでも 定員：30人  
申し込み：10月4日から電話で民家園へ

### ④ 秋の自然観察会

日時：11月3日(祝・火)9時30分～12時30分  
対象：中学生以上 定員：30人  
申し込み：10月4日から電話で民家園へ

### ⑤ 紙バンドで作る手提げ籠

日時：11月21日(土)9時30分～15時  
対象：中学生以上 定員：15人  
費用：材料費100円  
申し込み：11月4日から電話で民家園へ

### ⑥ 昔のくらし体験!

日時：11月28日(土)13時30分～15時  
対象：どなたでも 定員：30人  
申し込み：11月4日から電話で民家園へ

### ⑦ 探鳥会

日時：12月6日(日)9時～12時  
対象：どなたでも  
費用：中学生まで50円、高校生以上100円  
申し込み：当日、直接民家園へ

### ⑧ 和風づくり

日時：12月13日(日)10時～12時  
対象：小学生以上 定員：20人  
費用：材料費400円  
申し込み：12月4日から電話で民家園へ

## 旧坂東家住宅見沼くらしっく館

住所：さいたま市見沼区片柳 1266-2 電話：048-688-3330  
開館時間：9時～16時30分 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

### 1 主催事業

#### ① 趣味・教養講座(定員あり/無料)

イベント	月日	時間	定員
蕎麦打ち教室「二八そば」	10月7日(水)	10時～13時	8名
蕎麦打ち教室「ふのりそば」	10月14日(水)	10時～13時	8名
蕎麦打ち教室「よもぎそば」	10月21日(水)	10時～13時	8名
蕎麦打ち教室「更科そば」	10月28日(水)	10時～13時	8名
はじめての尺八(全6回)	10月10・24日、11月7・21日、 12月5・19日		5名
うどん打ち教室「地粉のうどん」	11月5日(木)	10時～13時	8名
オープン粘土で盃作り	11月11日(火)	10時～12時	8名
うどん打ち教室「よもぎうどん」	11月12日(木)	10時～13時	8名
はじめての篆刻	11月13日(金)	14時～16時	8名
竹細工「ガリガリとんぼ」	11月15日(日)	10時～12時	8名
うどん打ち教室「柚子うどん」	11月19日(木)	10時～13時	8名
一文字篆刻	11月20日(金)	14時～16時	8名
うどん打ち教室「変わりうどん」	11月26日(木)	10時～13時	8名
仮名篆刻	11月27日(金)	14時～16時	8名
和紙で作るランプシェード	12月9日(水)	14時～16時	8名
和紙と袱紗で作るポチ袋	12月10日(木)	14時～16時	8名
勾玉のネックレス	12月15日(火)	14時～16時	8名
勾玉のアクセサリ	12月16日(火)	14時～16時	8名
韓紙で作るランプシェード	12月17日(木)	14時～16時	8名
韓紙と袱紗で作るポチ袋	12月18日(木)	14時～16時	8名
管玉のプレスレッド	12月22日(火)	14時～16時	8名
管玉のストラップ	12月23日(火)	14時～16時	8名

※申込み等の詳細については見沼くらしっく館にお問い合わせ下さい。

#### ③ 公開講座(定員なし/無料)

十五夜観月会(ハモカサト・落語・投句会)	10月3日(土)15時/18時
新論語教室⑨「ホメロス」	10月6日(火)14時～15時
菊花開く(童謡合唱)	10月9日(金)14時～16時
民話鑑賞「いなわの語り部たち」	10月10日(土)13時～15時
特別講演「虫のおはなし」	10月18日(日)14時～16時
新論語教室⑩「孔子」	10月20日(火)14時～15時
十三夜観月会(邦楽鑑賞・選句発表)	10月30日(金)17時半-19時半
山茶花香る(童謡合唱)	11月14日(土)14時～16時
茶月歌声喫茶	12月11日(金)14時～16時

※申込み等の詳細については見沼くらしっく館にお問い合わせ下さい。

### 2 企画展示

「齋藤良夫コレクション虫愛でる」	10月6日(火)～10月25日(日)
「そよぐ花・にほふ華」	10月27日(火)～11月15日(日)
「皿に描く」	11月17日(火)～12月27日(日)

## 農業者トレーニングセンター(園芸植物園・大崎公園・子供動物園)

住所：さいたま市緑区大崎 3156-1 電話：048-878-2026  
開館時間：10時～16時 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

### ① 秋の盆栽展

期日：平成21年11月7日(土)～11月8日(日)10時～16時  
会場：さいたま市園芸植物園花き集荷施設  
対象：一般市民の方  
内容：松柏、さつき盆栽の展示、園芸相談など

## 大宮公園事務所「大宮第2公園・公園ギャラリー」

住所：さいたま市大宮区寿能町2-405 電話：048-645-9605  
開館時間：8時30分～17時  
休館日：毎月第1・3・5月曜日(祝日の場合、翌日休館)

### 1 展示会 ※詳細は、直接事務所にお問い合わせください。

四季折々の風景写真	10月6日(火)～10月11日(日)
押し花額の展示	10月6日(火)～10月18日(日)
手作りバッグと小物展示・即売	10月12日(水)～10月18日(日)
秋の山野草展示・即売	10月30日(金)～11月1日(日)
布織絵	11月3日(火)～11月8日(日)
晩秋の山野草展示・即売	11月12日(木)～11月15日(日)

## 見沼たんぼくらのイベント案内

### 第1回 見沼たんぼふれあいウォーキング

期 日：平成21年12月5日(土)(雨天決行)  
内 容：各チェックポイントで簡単な問題や体験に取り組  
み、決められたコースを時間内に踏破する。  
(歩く速さを競うものではありません)  
集合・解散：午前9時JR宇都宮線「土呂駅東口駅前広場」  
12時頃同一場所に解散  
定 員：募集人員80名  
(3名～5名のグループ参加も可能)  
コ ー ス：見沼たんぼ北部周辺を歩く約5.5kmのコース  
【コース概略】土呂駅⇒神明社⇒見沼橋(芝  
川)⇒砂の大ケヤキ⇒本村公園⇒鷲神社⇒見沼  
グリーンセンター(市民の森)⇒土呂駅(解散)  
持 ち 物：筆記具、雨具、防寒用衣類、飲物および携帯食  
参 加 費：無料(参加者全員に主催者側として、スポーツ  
保険に加入)  
申 込 み：11月15日(日)までに、往復はがきに、代  
表者と参加者全員の氏名(ふりがな)、年齢、  
現住所、自宅電話番号を明記して担当者佐々  
木明男宛に郵送すること。  
※先着順で参加者決定し、返信用ハガキにて  
本人宛てに通知します。

佐々木明男宅  
〒337-0005  
さいたま市見沼区小深作637-2  
自宅電話048-683-6765

### 第73回見沼塾 『和風づくり』

日 時：12月13日(日)10時～12時  
場 所：浦和くらしの博物館民家園  
内 容：和風を作ってあげます。  
対 象：小学生以上20名(親子可)  
参 加 費：材料費400円  
持 ち 物：①裁縫糸②速乾性接着剤③小刀・カッター③  
筆記具(マジック、色鉛筆等)④ハサミ  
申 込 み：12月4日(金)9時から電話で民家園  
(048-878-5025)へ(先着順)

### 第見沼たんぼ斜面林の体験学習 『大和田緑地公園』

日 時：12月13日(日)8時50分～12時  
集 合 地：さいたま市立大宮体育館正門  
見沼区大和田町1-305  
行 き 方：東武野田線大和田駅または大宮公園駅下車  
徒歩約15分  
内 容：大宮体育館南側に広がる見沼最大級の斜面  
林で特別緑地保全地区指定の大和田緑地公園  
で、森と谷地の見学及び落ち葉かきの軽作業  
申 込 み：先着50名、電話で下記の連絡先まで  
参 加 費：無料  
持 物：作業手袋、水筒、手拭、雨具、筆記具  
連 絡 先：(048)683-1764・小野

「見沼たんぼくらぶ」をお友達に紹介してください！「見沼たんぼ」を愛する仲間を増やしま  
しょう！年会費：個人(ファミリー)・団体・法人とも一口¥1,000です。

(編集・発行) 見沼たんぼくらぶ  
〒337-0053  
さいたま市見沼区大和田町1-2124-3 小野方

TEL・FAX：(048)683-1764  
URL：<http://minumatanbo.web.fc2.com/>